

國際聯盟衛生技術官交換視察會議參考資料

內務省衛生局

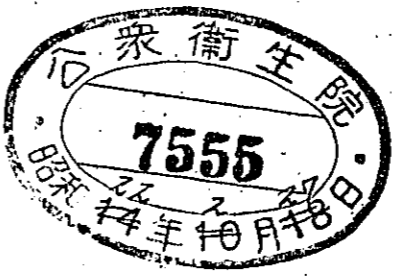
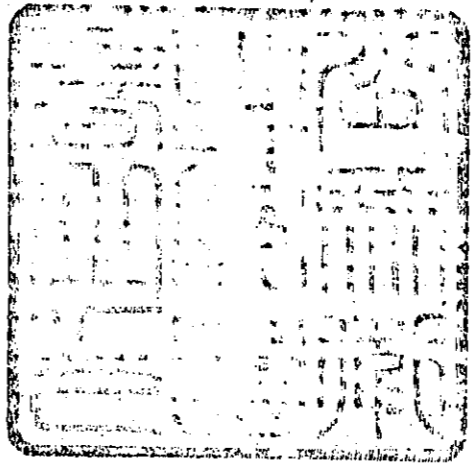
国立保健医療科学院蔵書



\*10012039\*

川上理一先生

PB
I
3



凡例



本編ハ大正十四年十月十八日ヨリ同年十一月二十二日ニ至ル期間  
 本邦ニ於テ開催シタル國際聯盟保健機關主催ニ係ル各國衛生技術  
 官交換視察會議ニ於ケル參考トシテ我國ニ於ケル衛生行政上ノ施  
 設等ニ付各擔任技術官ニ於テ執筆シタルモノヲ編纂シタルモノナ  
 リ

大正十四年十月

内務省衛生局

7555

## 參考書目次順序

一、衛生行政機關	一
二、上水道及飲料水	二
三、污物掃除及下水道	七
四、飲食物其ノ他ノ物品	二〇
五、牛乳及乳製品	三
六、食肉衛生	三七
七、鑛泉	四
九、母性及小兒保健	五
九、運動獎勵	六
一〇、衛生思想普及	一〇〇
一一、保健衛生調查	一〇六
一二、農村衛生	一五
一三、海港檢疫	四〇

一四、急性傳染病	一五一
一五、結核豫防	一三五
一六、癩豫防	一三七
一七、花柳病豫防	一四七
一八、トラホーム豫防	一五五
一九、寄生蟲及地方病豫防	一六四
二〇、脚氣豫防	一七二
二一、精神病	一八三
二二、救療事業	一九七
二三、醫師、齒科醫師及其ノ療屬	二〇五
二四、病院	二一〇
二五、藥品	二一五
二六、血清ワクシン	二二二
二七、賣藥	二三六
二八、阿片及麻藥類	二四三

二九、工場衛生	二五〇
三〇、鑛山衛生	二五九
三一、健康保險	二七九
三二、共濟組合	二八一
三三、學校衛生	四一三
三四、都市計畫	四八二

# 衛生行政機關

衛生局長 山田準次郎

## 甲 中央機關

中央衛生行政機關ニ三種アリ(一)行政機關(本來ノ意味ニ於ケル)、(二)審議機關及(三)研究機關之ナリ。

一、行政機關(本來ノ意味ニ於ケル)、一般衛生行政事務ハ内務大臣ノ管掌スル所ナリ然レトモ特別ノ事項ニ就テハ他ノ大臣ニ屬スルモノナキニ非ス例ハ學校衛生ハ文部大臣軍事衛生ハ陸海軍大臣ノ主管ニ屬スルカ如シ。内務省ニ衛生局ヲ置キ、内務大臣ノ主管ニ屬スル一般衛生行政事務ノ補助執行ニ當ラシムルノ外勞働衛生ニ就テハ社會局ニ於テ之ヲ管掌ス。

二、審議機關。衛生行政上ノ事項ニ就キ各主務大臣ノ諮問ニ應スル爲メニ、中央衛生會アリ、日本藥局方改正ニ關スル事項ヲ調査スル爲メニ藥局方調査會アリ、國民ノ保健衛生ニ關スル事項ヲ調査審議スル爲メニ保健衛生調査會アリ。是等ノ機關ハ主トシテ行政機關ノ諮問ニ應シテ意見ヲ答申スルヲ其ノ權限トスルモ諮問ヲ俟タズ進ンテ意見ヲ行政廳ニ提出スルコトヲ得ヘシ。

三、研究機關。衛生行政上ノ事項ニ對スル學術上ノ調査研究機關トシテ衛生試驗所、傳染病研究所及榮養研究所アリ。

左ニ是等機關ニ就テ説明スヘシ。

### 第一 行政機關

一、内務省—衛生局 我邦ニ於テ歐米ノ制ニ則レル衛生行政機關ノ設置ヲ見ルニ至レルハ明治維新後ノコトナリトス。維新ノ初メ大學東校ニ於テ醫事教育ノ外ニ衛生行政ニ屬スル事項ヲ管掌セリ例ハ賣藥取締ニ關スル事務、種痘ニ關スル事務ノ如キ之レナリ。明治五年（一八七二年）ニ至リ文部省ニ醫務課ヲ置キ尋テ翌明治六年（一八七三年）ニ同省ニ醫務局ヲ設ケタルコトハ蓋シ科學的基礎ニ立テル衛生行政執行ノ衝ニ當ル機關ノ設置セラレタル濫觴ナリ。然レトモ當時衛生行政上ノ法規制度備ハラサリシカハ同局ニ於テハ直ニ其ノ調査立案ニ着手シ明治七年（一八七四年）ニ至リ所謂「醫制」ノ發布ヲ見タリ實ニ之レ我邦ニ於ケル統一セル醫藥制度ノ嚆矢ナリトス。文部省ノ醫務局ハ單ニ衛生行政ノミナラス醫學教育ニ關スル事務ヲモ兼掌シ居タリシニ明治八年（一八七五年）衛生行政事務ヲ内務省ニ移管スルニ及ヒ始メテ衛生行政事務ヲ專掌スル機關ノ設置ヲ見ルニ至レリ。始メ内務省ニ於テハ衛生行政事務ヲ掌理スル局ヲ第七局ト稱セシモ直ニ衛生局ト改メテ今日ニ至レリ。衛生局ニ於テハ一般ノ衛生行政事務ヲ管掌シ保健、豫防、防疫及醫務ノ四課ニ分タル其ノ

事務ノ分擔左ノ如シ。

### 保 健 課

- 一、飲料水及水道ニ關スル事項
- 一、飲食物其ノ他榮養ニ關スル事項
- 一、屠畜及屠場ニ關スル事項
- 一、下水道、汚物掃除其ノ他清潔保持ニ關スル事項
- 一、公園、鑛泉場、海水浴場、療養地等ニ關スル事項
- 一、工場、劇場其ノ他多衆集合スル場所ノ衛生ニ關スル事項
- 一、小兒及婦女ノ一般衛生ニ關スル事項
- 一、運動獎勵ニ關スル事項
- 一、衛生統計ニ關スル事項
- 一、衛生思想普及ニ關スル事項
- 一、他課ノ主管ニ屬セサル公衆衛生ニ關スル事項

### 豫 防 課

- 一、結核「トラホーム」、癩、花柳病其ノ他慢性傳染病ニ關スル事項

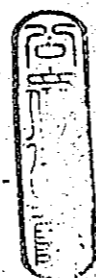
- 一、寄生蟲病、原蟲病及地方病ニ關スル事項
- 一、精神病ニ關スル事項
- 一、恩賜財團濟生會其ノ他救療ニ關スル事項

防疫課

- 一、急性傳染病ニ關スル事項
- 一、海港檢疫ニ關スル事項
- 一、痘苗血清其ノ他細菌學的豫防治療品ニ關スル事項

醫務課

- 一、醫師、齒科醫師、產婆及療屬ニ關スル事項
- 一、藥劑師、製藥者及藥種商ニ關スル事項
- 一、醫師會、齒科醫師會及藥劑師會ニ關スル事項
- 一、藥品及賣藥ニ關スル事項
- 一、毒物、劇物其ノ他有害物ニ關スル事項
- 一、賣藥部外品ニ關スル事項
- 一、藥草栽培及製藥獎勵ニ關スル事項



一、普通病院ニ關スル事項  
衛生局ニ於ケル經常ノ職員及其ノ定員左ノ如シ。

- 衛生局長 一人(事務官)
- 技師 六人(内一人勅任)
- 書記官 二人
- 屬技手 十三人

外ニ臨時職員トシテ傳染病豫防ノ爲メニ防疫官九人防疫官補三人保健衛生調査ノ爲メニ技師二人屬技手三人ヲ置ケリ。

- 二、内務省―社會局 勞働衛生ハ内務大臣ノ主管ニ屬スル衛生局ノ掌理ニ屬セス社會局ニ於テ其ノ事務ヲ司掌ス、社會局ニ於テハ第一部監督課ニ於テ其ノ事務執行ノ任ニ當レリ。
  - 三、文部省―學校衛生課 學校衛生ハ文部大臣ノ主管ニ屬シ、文部大臣官房ニ學校衛生課アリテ其ノ事務ヲ掌理ス。
  - 四、陸海軍省―醫務局 軍事衛生ハ陸海軍大臣ノ主管ニ屬シ各醫務局アリテ其ノ事務ニ當ル。
- 以上ノ外鐵道衛生ハ鐵道省ニ於テ監獄衛生ハ司法省ニ於テ之レヲ司掌ス。

## 第一 審議機關

一、中央衛生會 中央衛生會ハ明治十年（一八七七年）虎列刺病流行ニ際シ檢疫停船其ノ他ノ事ヲ審議セシメンカ爲メニ臨時的ニ設ケラレタルニ始マリ同年十二月官制ヲ定メ廣ク衛生行政全般ニ對スル諮問機關トシテ恒久的機關トセラレタルモノナリ。爾來官制ハ幾度ノ改正ヲ經テ今日ニ至レリ。

中央衛生會ハ內務大臣ノ監督ニ屬スルモ、公衆衛生、獸畜衛生ニ關スル事項ニ就キ各省大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申シ又衛生ニ關スル事項ニ就キ主務大臣ニ建議スルヲ以テ其ノ權限トス。中央衛生會ハ會長一人委員三十人以內ヲ以テ之レヲ組織ス。臨時必要アル場合ニ於テハ前述定員ノ外ニ臨時委員ヲ命スルコトヲ得ヘシ。中央衛生會ニ幹事一人ヲ置キ內務省高等官ヲ以テ之ニ充テ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス。

二、日本藥局方調査會 日本藥局方調査會ハ第二改正日本藥局方改正ノ必要認メラレ其ノ審議ノ爲メニ明治三十三年（千九百年）臨時的ニ設立セラレタルニ始マル。其ノ審議ハ間モナク完成セラレ明治三十九年（千九百六年）第三改正日本藥局方ハ公布セラレタルモ藥局方調査ハ不斷ニ之レヲ爲スノ必要アルヲ以テ同調査會ハ恒久的機關ニ引直サレタリ。

日本藥局方調査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ日本藥局方改正ニ關スル事項ヲ調査ス。日本藥局方調査會ハ會長一人委員十六人以內ヲ以テ組織ス。臨時必要ノ場合ニ於テハ前述定員ノ外臨時委員ヲ命スルコトヲ得。日

本藥局方調査會ニ幹事一人ヲ置キ內務省高等官ヲ以テ之レニ充テ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス。

三、保健衛生調査會 保健衛生調査會ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ、國民ノ保健衛生ニ關スル事項ヲ調査審議ス。調査會ハ會長一人委員四十人以內ヲ以テ之レヲ組織ス。前述定員ノ外必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ置クコトヲ得。會長ハ內務大臣ヲ以テ之レニ充ツ。調査會ニ幹事ヲ置キ內務省高等官ノ內ヨリ之レヲ命シ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス。

保健衛生調査會ハ中央衛生會ト其ノ權限重複スルカ如キモ保健衛生調査會ハ我邦ニ於ケル國民衛生狀態ノ良好ナラサル現状ヲ憂フルノ結果之レカ改善ニ關スル方策ヲ講究センカ爲メニ特ニ朝野各方面ノ専門家ヲ委員ニ撰ヒ其ノ設立ヲ見ルニ至レルモノナリ。

## 第三 研究機關

一、傳染病研究所 傳染病研究所ハ大日本私立衛生會附屬トシテ明治二十五年（一八九二年）其ノ設立ヲ見タリシカ明治三十二年（一八九九年）ニ至リ內務省所管ノ研究所トシテ官立ニ引直サレ明治三十八年（一九〇五年）ニ從來別ニ官業トシテ經營シツ、アリタル痘苗製造所及血清藥院ノ事業ヲ之レニ合併セリ。而シテ大正五年（一九一六年）之レヲ文部省ニ移管シ東京帝國大學ニ附置セラレ以テ今日ニ至レリ。傳染病研究所ハ東京帝國大學ニ附置セラル、ニ至リシ後モ衛生行政ニ關スル事項ニ就テハ內務大臣ノ監督ヲ受ケ居レリ。



傳染病研究所ハ傳染病其ノ他病原ノ檢索、豫防治療方法ノ研究、豫防消毒方法治療材料ノ檢査、傳染病研究  
究方法ノ講習痘痘苗血清其ノ他細菌學的豫防治療品ノ製造及檢定ニ關スル事務ヲ掌ル。

傳染病研究所ニ所長一人ヲ置ク、所長ハ技師又ハ東京帝國大學醫學部ニ屬スル教授ノ中ヨリ文部大臣之レ  
ヲ補ス。其ノ他ノ職員トシテ技師十人、技手二十五人、藥劑師三人、書記五人、看護長三人アリ。前述定員  
ノ外二十人以内ノ無給技手ヲ置クコトヲ得ヘシ。

二、衛生試驗所 衛生試驗所ハ明治七年(一八七四年)文部省カ創立セル東京司藥場ニ始マル。司藥場ハ藥  
品ノ檢査ヲ爲スヲ以テ任務トセリ。衛生行政ノ文部省ヨリ内務省ニ移管セラル、ヤ同場モ亦内務省所管トナ  
レリ。次テ明治十五年(一八八二年)ニ至リ藥品試驗ノ外ニ衛生上ニ關スル諸物件ノ檢査試驗ヲ爲スコト、ナ  
レリ。翌年司藥場ノ名稱ヲ改メテ衛生局試驗所ト改稱シ更ニ二十年(一八八七年)ニ至リ衛生試驗所ト改稱シ  
現今ニ至レリ。又明治四十二年(一九〇九年)ヨリ從來衛生局ニテ取扱ヒ居タル藥用阿片ニ關スル事務ヲ取扱  
フコト、ナレリ。衛生試驗所ハ東京及大阪ニ置ク、内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ。  
衛生試驗所ハ檢明部、藥劑部、調查部及庶務部ノ四部ニ分タル但シ大坂衛生試驗所ニハ調查部ヲ置カス。  
各衛生試驗所ヲ通シテ技師八人、技手十九人及書記五人ヲ置ク、各衛生試驗所ニ所長ヲ置ク技師ノ内ヨリ之  
レヲ補ス。

歐洲大戰當時藥品ノ輸入困難トナルヤ内地ニ於テ之ヲ製造スルノ必要ニ迫ラレ、衛生試驗所ニ於テ其ノ調

査ヲ爲スコト、ナリ、爾來今日ニ於テモ醫藥品製造試驗及藥用植物栽培試驗ニ關スル事務ニ從事セシムル爲  
メ試驗所ニ臨時ニ技師六人技手十一人書記一人ヲ置ケリ。

三、榮養研究所 榮養研究所ハ大正元年(一九一〇年)ノ設立ニ係リ内務大臣ノ管理ニ屬シ國民ノ榮養ニ關  
スル事項ヲ調査研究ス。

榮養研究所ハ基礎研究部、應用研究部、調查部、庶務部ノ四部ニ分タル。榮養研究所ニ技師六人、技手九  
人書記二人ヲ置ク。榮養研究所ニ所長ヲ置ク所長ハ技師ノ内ヨリ之レヲ補ス。前述定員ノ外二十名以内ノ無  
給技手ヲ置クコトヲ得ヘシ。

## 乙 地方機關

衛生行政ノ地方機關ハ府縣知事東京府ニ在リテハ府知事ノ外ニ警視總監警察署長、市町村及市町村長等ナリ。此ノ外ニ海港檢疫ノ  
機關トシテ税關及臨時海港檢疫所アリ。

一、府縣知事、警視總監 府縣知事ハ地方最上級ノ一般行政官廳ニシテ衛生行政事務モ亦其ノ管掌ニ屬  
ス。府縣知事ノ下ニ警察部アリ、警察部ニ衛生課ヲ置キ衛生行政ノ衝ニ當ラシム。衛生課ニ各種専門ノ技術  
者ヲ置キ又衛生試驗室ヲ附置ス。

東京府ニ在リテハ衛生行政事務ハ府知事ト警視總監トノ間ニ分配セラル。警視總監ニ屬スヘキ事務ハ内務

大臣之レヲ指定スルノ定メナルモ衛生行政ノ大部分ハ警視總監ノ權限ニ屬セシメラレ居レリ。警視廳ニ衛生部アリ衛生事務ヲ掌理ス。

二、警察署長 我邦ニ於ケル中級ノ地方行政官廳ハ郡長及警察署長ナルモ衛生行政ハ原則トシテ警察署長ノ權限ニ屬セシメラル。警察署ハ原則トシテ郡市ヲ其ノ管轄區域トス。警察署長ハ部内ノ衛生事務ヲ掌理ス。

三、市町村及市町村長 市町村及市町村長モ亦法令ノ定ムル所ニ從ツテ衛生行政事務ヲ掌理ス。都會地等ニ在リテハ市役所ニ衛生課ヲ設ケ或ハ衛生試驗所ヲ有スルモ村落地ニ在リテハ係ヲ置クニ止マルヲ普通トス。

四、檢疫機關 海港檢疫ヲ執行スヘキ海港ハ横濱、大阪、神戸、門司、長崎、敦賀ノ六港ナリ。是等港ニ於テハ稅關カ海港檢疫執行ノ任ニ當レリ。其ノ爲メニ稅關ニ港務部アリ、港務官、醫官、醫官補等ヲ置ケリ。臨時海港檢疫執行ノ必要アル場合ニハ臨時海港檢疫所ヲ置ク、臨時海港檢疫所ハ地方長官ノ管理ニ屬シ所長ハ臨時海港檢疫所所在地ノ道廳府縣ノ警察部長ヲ以テ之ニ充ツ。

## 上水道及飲料水

内務技師

松尾

仁

### 一、上水道

本邦ニ於テ上水道ノ創始セラレタルハ史上ニ明確ナル記載ヲ缺ケ共東京市水道ノ起源ノ如キハ其ノ最モ古キモノ、一ツナルベシ。東京市水道ノ起源ハ天正十八年（一五九〇年）徳川家康（徳川幕府ノ創始者）ノ命ニヨリ大久保藤五郎ナル者所謂神田上水ヲ創畫シタルニ始ル次イテ承應元年（一六五二年）幕府ハ水道擴張ノ必要ヲ認メ江戸町奉行神尾備前守ニ命シ玉川ノ江戸（東京ノ舊稱）ヲ距ル十一里（約二十七哩）ノ點ヨリ水路ヲ開鑿シ上水道ヲ布設セシム所謂玉川上水ニシテ明治三十三年（一九〇〇年）東京市現水道ノ完成ヲ見ル迄一般市民ノ使用ニ供セラレ且現水道ノ水源トナレルモノナリ。

其他二―三百年前ニ布設セラレタル水道ニシテ現ニ使用セラル、モノニ兵庫縣赤穂町、廣島縣福山市（目下新水道布設中）等ニ存在スルモノアリ此等ハ皆自然流下式ニシテ淨化裝置等ニ缺クル所アリシカ泰西科學ノ輸入ニ連レ近時布設セラル、水道ハ悉ク洋式ニ則リ形態全ク一變セリ。

水道ニ關スル現行法令ハ明治二十三年(一八九〇年)發布セラレタル水道條例及其ノ附屬法規ニシテ其ノ後數度ノ改正ヲ經テ今日ニ至レリ同法律ニヨレハ水道ハ市町村カ之ヲ經營スルヲ原則トシ唯當該市町村カ其ノ資力ニ堪ヘサル場合ニ限り市町村以外ノ企業者ニ其ノ布設ヲ許可スルコトヲ得ルモ許可年限ノ滿了シタル時又ハ許可年限滿了前ト雖モ關係市町村ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ水道及水道經營ニ必要ナル土地物件ヲ買收シ得ルコトヲ規定セリ又内務大臣ハ必要ト認ムル場合ハ水道ノ布設ヲ市町村ニ命令スルノ權利アリ。

何レノ場合ニモ水道ヲ布設セムトスルトキハ企業目論見書ヲ具シ内務大臣ノ認可ヲ受クルヲ要スルモ近時給水人口一萬ヲ超エサル水道ノ布設ハ地方長官ニ其ノ權限ヲ委任セラレタリ水道ハ衛生上至大ノ關係アルヲ以テ國庫ヨリ補助ヲ與ヘ其ノ布設ヲ獎勵シ來レリ國庫補助ハ明治二十一年(一八八八年)ヨリ開始シ當時補助ノ歩合ハ大體工費ノ三分ノ一ヲ標準トシタリシカ明治四十年(一九〇七年)ヨリ工費ノ四分ノ一ニ減シタリ毎年國庫補助額ハ下水道ニ對スル補助額ト合セ大正元年(一九一二年)迄ハ百二十萬圓ナリシモ補助費支出ノ増加ニ伴ヒ漸次増加シ大正九年(一九二〇年)以降ニ於テハ百六十萬圓ニ増加セリ。

此外縣郡(郡)大正十二年(一九二三年)ヨリ廢止)ヨリ補助シタル金額モ亦尠カラサルモ其ノ調査ヲ缺ク。既設水道ノ監督ニ關シテハ地方長官其ノ任ニ當リ其ノ所屬ノ技術官ヲシテ設備水質水量等ヲ検査セシメ必要ニ應シ之カ改良ヲ命令シツ、アリ

現在水道概要

日本ニ於ケル最初ノ洋式水道ハ横濱市水道ニシテ明治十八年(一八八五年)ノ起業ニ係リ爾來上水道數ハ左表ノ如キ發展ヲ示セリ。

上水道認可十年別表

企業者別	明治三十年代 (一八九七年度迄)	明治四十年代 (一九〇七年度迄)	大正六年度 (一九一七年度)	大正十三年度 (一九二四年度)	計
市	八	九	二一	一五	五三
町村	一	七	三六	六六	一一〇
其ノ他			四	二二	二六
計	九	一六	六一	一〇三	一八九

本表ニ記載スルモノ、外簡單ナル裝置ヲ有シ小部落ニ給水スル水道ノ數甚タ多ケレ共其ノ統計ヲ缺ク。

(1) 水源ニツイテ之ヲ類別スレハ

- 河川ヨリ取入ル、モノ 一三七
- 湧水ヲ水源トスルモノ 二五
- 貯水池ヲ水源トスルモノ 一八
- 鑿井ニヨルモノ 六

湖水ヨリ取入ル、モノ

三

計

一八九

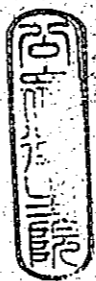
トナル

(2) 水質清浄ニ關スル設備 ハ水源ノ關係上水質ノ汚染セラル、虞絶體ニ無キ一、二、ノ水道ノ濾過設備ヲ有セサルモノ又ハ濾過機ヲ有シ急速濾過ヲ行ヒツ、アル二、三、ノ水道ヲ除キテハ濾過床ヲ有シ緩速濾過ヲ行ヒツ、アリ。

(3) 市町村ハ水質試験機關ヲ具備シ常ニ水質ノ清浄ニ注意ヲ怠ラス大正十年(一九二一年)ニ於ケル三十三都市ノ成績ニ徴スルニ原水ニシテアンモニア亞硝酸ヲ含有スルモノ殆ト無ク硬度ノ最モ大ナルモノハ獨逸硬度四、九七八ニシテ最小ハ〇、五ナリ原水一リツトル中クロールノ含有量ハ最大一八ミルグラムニシテ最少〇、六六八ミリグラム過マンガン酸加里ノ消費量ハ最大一四、一六四ニシテ最少〇、六〇一ミリグラム細菌聚落數一c.c.中最大五三七四ニシテ最少二、ナリ

而シテ濾過シタル結果ハ細菌聚落數一c.c.中五〇以上ヲ示スハ僅ニ一ヶ所ニシテ細菌聚落數ノ濾過ノ際ニ於ケル減少率ハ九〇%以上ニ上ル。

(4) 給水ノ狀況 各地水道ノ事情ニ應シ一定ノ料金ヲ徴シ給水ヲ使用者ノ自由數量ニ放任スルモノト量水器ヲ各使用者ニ附與シ其ノ使用シタル水量ニ對シ料金ヲ徴スルモノト二方法行ハルレ共漸次後者増加ノ傾



向アリ大正七年(一九一八年)ノ統計ニヨレハ一日一人當リノ平均給水量ノ最大ナル個所ハ六、二〇立方呎ヲ供給シ最少ナル個所ハ〇、一八立方呎ヲ供給シタリ然レ共此最少量ハ小規模ノ水道ニシテ都市ニ於テハ二、五乃至四、立方呎ヲ普通トス。

(5) 水道ニ關シテハ上水協議會ナル團體アリテ其ノ改良進歩ニ貢獻スル所少カラス上水協議會ハ水道ヲ經營スルモノ及水道布設計劃中ノモノヲ以テ會員トシ水道ニ關スル諸種ノ事項ヲ研究シ且相互報告類ヲ交換スル目的ヲ以テ明治三十七年(一九〇四年)東京市ノ主唱ニ依リ成立シタルモノニシテ爾來毎年一回會議ヲ開催シ水道ニ關スル各種事項ヲ研究討議スルノミナラス各自研究ノ結果ヲ發表スルノ外統計類ヲ輯録シテ會員ニ配布シ來レリ。

其ノ協定セル上水試験法ノ内飲料適否ノ判定標準ヲ掲クレハ左ノ如シ

左ノ事項ノ一ニ該當スルモノハ飲料水ニ適セサルヲ以テ直ニ改善ノ方法ヲ實行シ其ノ間ハ必ス煮沸ノ後飲料水ニ供セシムヘシ。

一、外觀異狀アルモノ

二、異臭味アルモノ

三、直ニ亞硝酸及アンモニアノ反應ヲ呈スルモノ

四、過マンガン酸カリウム消費量十ミリグラム以上ノモノ

五、細菌聚落數百一個以上ノモノ、但シ土地ノ狀況ニヨリ百五十一又ハ二百一個以上トナスコトアルヘシ  
 六、反應、クロール、硫酸、硝酸、固形物總量、硬度ノ異狀アルモノ又ハ鉛ヲ檢出スルモノハ適宜其ノ良  
 否ヲ判定シ其ノ他異狀成分病原的細菌混在ノ疑アルトキハ特ニ試驗ヲ施シ判定ノ上改善ノ方法ヲ施行ス  
 ルコト

二、一般飲料水供給設備ノ改良ニ就キ  
 一般飲料水供給設備ノ改善ニ付テハ各府縣長官ニ於テ其ノ所屬ノ技術官ヲシテ井戸其ノ他ノ水源ニ付キ試  
 驗ヲ施行セシメ不良ナルモノニ對シテハ之カ改善ヲ行ハシメツ、アリ而シテ大多數ノ府縣ハ飲料水改良補  
 助規定ヲ設ケ井戸特ニ共同井戸ノ新設改良ニ對シ補助ヲ與フルト共ニ取締ヲ爲シツ、アリ。

# 汚物掃除及下水

内務技師 松尾仁

## 一、汚物掃除

我國ニ於ル汚物掃除ノ現行制度ハ明治三十三年(一九〇〇年)制定セラレタル汚物掃物法ニヨルモノナリ、  
 同法ノ主ナル内容ハ都市、地方長官ノ指定シタル町村及其ノ住民ニ對シ汚物ノ掃除及處分義務ヲ負擔セシメ  
 以テ土地住居ノ清潔保持ノ目的ヲ達セムトスルモノニシテ汚物トシテ取扱ハルモノハ塵芥、汚泥、汚水及尿  
 尿ニシテ同法適用地ニアル土地ノ所有者使用者占有者ハ是等汚物ノ掃除ヲ爲シ清潔ヲ保持スルノ義務ヲ有シ  
 其ノ他公道ノ如キ別段ノ義務者ナキ場所ハ同法適用地タル市町村自ラ其ノ義務負擔ヲ命セラル。

現在汚物掃除法ノ適用市町村ハ全國ニテ

都市	九四
町村	三二六

ナリ

塵芥ノ處分ニ就テハ適用地市町村住民ノ土地占有者カ先ツ掃除シ一定ノ容器ヲ設備シ之ニ蒐集スルモノニ

シテ市町村ハ其ノ掃除シタル塵芥ヲ一定ノ地ニ搬出シ燒却其ノ他ノ方法ニ依テ衛生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ヲ以テ處分ヲナス

前記適用市町村中塵芥燒却場ノ設備ヲ爲シテ處分シツ、アルモノハ八市三町ニシテ野外露天燒却ヲナスモノハ五市十二地方ニ於ケル準用町村ナリ其ノ他ハ埋積シテ肥料トナスモノ海面河川ノ埋メ立テニ使用スルモノ低地ノ埋立ニ使用スルモノ海邊又ハ野外ニ放棄スルモノ養豚養雞ニ使用スルモノ等一様ナラス。  
塵芥産出量ハ次ノ如シ

- 大正十年(一九二一年) 約一、五四五、二二〇メートルツク噸
- 大正十一年(一九二二年) 約一、五五四、二三九メートルツク噸
- 大正十二年(一九二三年) 約一、五九四、三六九メートルツク噸

汚水及汚泥ニ就テハ土地又ハ建物ノ所有者ニ對シ必要ナル溝渠ノ築造修繕ヲ命シ更ニ市町村ノ築造シタル溝渠ニ排泄セシムル等ノ方法ヲ命セリ。

尿尿ニ就テハ我邦ニ於テハ古來ヨリ農業ノ盛ナル爲メ有價值ノモノトシテ農家ニ有料處分ヲ爲サシメ居タル習慣アリ爲メニ法ハ市住民ノ權利ヲ尊重シテ尿尿ニ就テノミ市ノ處分義務ヨリ除外シ各個人ニ於テ適宜處分セシメ居タリシカ近來勞銀ノ騰貴ニ伴ヒ都市近接ノ農家ハ之カ汲取ヲ嫌忌シ市民ハ自ラ汲取料ヲ支拂フカ或ハ市ニ於テ莫大ノ費用ヲ以テ郊外遠隔ノ地ニ搬出スル已ムナキ反對現象ヲ呈スルニ至レルカ爲都市ニヨリ

テハ地方長官ヨリ其ノ處分義務ヲ命セラレタルモノアリ。

### 二、下 水 道

下水道ニ關シテハ明治三十三年(一九〇〇年)下水道法ヲ發布シ市町村ニ於テ下水道ヲ築造セムトスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要シ下水道ヲ築造シタル市町村ニ於ケル土地ノ所有者使用者占有者ハ雨水汚水ヲ下水道ニ疏通セシムル爲メ必要ナル施設修繕及掃除ヲナス義務ヲ負擔スルコトヲ定メタリ洋式下水道ヲ築造シタル市町村ハ未タ其ノ數少ク全國二十三ヲ算スルニ過キス内市二〇町村三ナリ。

洋式下水道ノ上水道ニ比シ普及ノ遅々トシテ進マサルハ從來本邦都市ニハ公共清潔溝渠アリ且ツ汚物掃除法ニヨリテ下水道ヲ築造セサル市ハ必ス公共溝渠ヲ設クルコトヲ定メラレタルカ爲メ公共溝渠發達シ不完全ナカラ排水ヲ行ヒ得ルト(一)ニ述ヘタルカ如ク尿尿ハ從來有價值ナリシヲ以テ本邦ニ於ケル在來便所ハ全テ汲取式ニシテ溝渠ニ之ヲ排泄スルコトナク從ツテ溝渠ニ入ル汚水ハ洗濯、炊事又ハ工場ノ廢棄水ノミナルカ故ニ汚濁ノ程度甚タシカラルトニ因ル水道ハ事業收入ヲ伴フニ比シ下水道ハ之ヲ缺クモ亦原因ノ一ニ數ブルコトヲ得ヘシ下水道築造ハ之カ獎勵ノ爲メ國庫ヨリ工費ノ總額ノ三分ノ一ニ當ル金額ヲ補助シツツアリ

# 飲食物其ノ他ノ物品

内務技師 松尾仁

## 飲食物ト其ノ取締ノ沿革

本邦ニ於テ使用セラルル飲食物ノ種類及其ノ調理法ハ年ヲ追ヒ漸次發達シタルモノナルヘシト雖日本書記(養老四年西曆七二六年ノ著)ニ依レハ既ニ神話時代ニ粟稗麥豆米アリタルコト、天武天皇ノ四年(六七五年)四月勅シテ牛馬、犬猿鶏ノ肉ヲ食スルコトヲ禁シ犯スモノハ罰セラレタルコト及 持統天皇ノ五年(六九一年)ノ詔勅中鳥獸蟲魚ノ肉ヲ常食云々ノ語アリタルコトヲ記セリ下リテ延喜式(延喜五年、九二六年ノ著)ニハ蘿蔔味醬漬瓜、鹿肉、猪肉、押鮓、煮鹽鮎牛乳等ノ語アリ上古既ニ今日ノ飲食物ノ種類ト大差ナキモノヲ使用シタルヲ知ルニ足ル。

唯上古ノ末葉以後佛敎ノ本邦ニ於ケル勢力増大スルニ伴ヒ屢々獸肉食用禁止ノ令發布セラレ遂ニ習俗ヲナシテ明治維新ニ至ル迄獸肉殊ニ家畜肉ヲ食用ニ供スルコト殆ント無キニ至レリ。

取締法規ニ關シテハ史上ニ記録セラル、モノ殆ント無ケレ共猶延喜式ニ記載スル市場規則ニヨレハ五一種ノ販賣店中飲食物店ハ米店、鹽店、生魚店、菓子店外八種アリ此等商店ハ公定價格以上ノ物品ヲ販賣スルコトヲ得サル規定アリ。

降リテ徳川時代ニ至リ貞享三年(一六八七年)及元祿六年(一六九三年)ノ二回ニ涉リ梨子茄子等總計二十一種ノ野菜果物ニ付賣出期節ノ制限令ヲ公布シタルコトアリ又酒類飲用ニ關スル制限ハ文祿四年(一五九五年)以後屢々其ノ公布ヲ見中ニモ寶永四年(一七〇七年)ノ一般禁止及元祿十四年(一七〇一年)ノ婚禮又ハ特別ナル祝儀ノ外飲酒ヲ禁セルヲ其ノ最モ嚴重ナルモノトス。

然レ共其ノ當時ノ狀勢ヲ察スルニ何レモ衛生上ノ見地ニ立脚シタルモノニアラサルカ如シ。

唯嘉永六年(一八五三年)玄米早春ノ藥ヲ禁止セラレタルハ人畜ノ命ヲ損フト云フ理由ニ基ケリ。

次イテ明治維新トナリテ後ハ一般ニ就イテハ舊刑法ニ牛乳其ノ他特殊ノモノニ關シテハ地方命令ニ依リ取締ヲ實行シタリシカ明治三十三年(一九〇〇年)ニ至リ現行飲食物取締ニ關スル法規確立シタリ。

(一)關係取締法規ノ主ナル種類

飲食物其他ノ物品取締ニ關スル件

明治三十三年(一九〇〇年)

飲食物其他ノ物品取締ニ關スル法律施行ニ關スル件

明治三十三年(一九〇〇年)

牛乳營業取締規則

明治三十三年(一九〇〇年)

氷雪營業取締規則

明治三十三年(一九〇〇年)

人工甘味質取締規則

明治三四年(一九〇一年)

有害性著色料取締規則

明治三三年(一九〇〇年)

飲食物防腐劑取締規則

明治三六年(一九〇三年)

清酒ノ製造又ハ貯藏ニ關シチール酸使用ノ件

大正三年(一九一四年)

飲食物用器具取締規則

明治三三年(一九〇〇年)

メチールアルコホル(木精)取締規則

明治四五年(一九一二年)

警察犯處罰令

明治四一年(一九〇八年)

人造バター表示ニ關スル件

大正三年(一九一四年)

茶葉取締ニ關スル件

明治四四年(一九一一年)

未成年者飲酒禁止法

大正十一年(一九二二年)

未成年者喫煙禁止法

明治三三年(一九〇〇年)

(二)取締ノ主ナル内容

(1)一般飲食物ニ關スル事項

△. 一般飲食物ニ關スル制限 (一)ニ列舉シタル法規ハ其ノ後再三ノ一部改正ヲ經テ現在ニ至レルモノナルカ一般飲食物トシテハ一定ノ飲食物ニ他物ヲ混シテ不正ノ利ヲ圖リ又ハ不熟ノ果物腐敗シタル肉

類其ノ他健康ヲ害スヘキ飲食物ヲ營利ノ用ニ供スルコト若クハ炮煮洗滌、剥皮等ヲ要セス其ノ儘食用ニ供スヘキ飲食物ニハ覆蓋ヲ設ケス店頭ニ陳列スル等ヲ禁ス。

B. 一般飲食物ニ對シ特殊ノ物品ノ販賣又ハ混入ヲ禁止ス即チ防腐劑ニアリテハ安息香酸外十四ノ品種及其ノ化合物並ニ之等ヲ含有スルモノ一切ヲ舉ケテ之ヲ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ製造貯藏ニ當リテ使用スルコトヲ禁スルノミナラス飲食物防腐用ト稱シテ販賣スルコトヲ禁止ス但清酒ニ對シテノミ法定ノ試験ニ合格スル程度ニ於テサリチール酸ヲ防腐用トシテ使用スルコトヲ許サル右法定試験ニ合格スル分量ハ清酒一石(一、八ヘクトリーター)ニツキサリチール酸大約十匁(三十七、五グラム)以下ナリ。著色料トシテハ砒素外十四品種及其ノ化合物並ニ之ヲ含有スルモノヲ販賣ノ用ニ供スル飲食物ノ著色ニ使用スルコトヲ禁ス但シ野菜果實類ノ貯藏品ニアリテハ其一キログラム中銅一〇〇ミリグラム昆布ニアリテハ其ノ無水物一キログラム中銅一五〇ミリグラムヲ含有スル限度迄銅、銅化合物又ハ之ヲ含有スル著色料ノ使用ヲ許サル

又サツカリン其ノ他之ニ類スル甘味ヲ有スル化學的製品ニシテ含水炭素ニ在ラサル物ヲ飲食物ニ加味シテ販賣スルコトヲ禁セラル。

メチールアルコホル(木精)ヲ含有スル飲食物ノ販賣モ亦禁止セラレ且メチールアルコホル又ハ之ヲ含有スル物品ニハ其ノ容器ニ其ノ旨明記シテ購買者ヲシテ飲食用ニ適セサルコトヲ知ラシム。



(2) 特殊ノ飲食物ニ關スル取締ノ内容

A. 清涼飲料水(リモナーデ、曹達水、シロップ食卓用鑛泉ノ類)製造業ヲナサムトスル者ハ地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ必要トシ地方長官ハ技術官ヲシテ工場設備使用水等ヲ検査セシメ衛生上支障ナシト認メタル場合初メテ之ヲ認可ス製造業者ハ其ノ製造ニ際シ清涼飲料水ニ接觸スル部分ニ衛生上危害ノ虞ナキ方法ヲ施シタルモノニアラサル限り銅鉛又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シタル器具容器ヲ使用スルコト及結核、癩、梅毒其ノ他傳染病ニ罹レルモノヲシテ製造ニ從事セシメ若クハ製造所ニ立入ラシムルコトヲ禁セラル、又現品ニ付テノ特別ノ制限ハ原料トシテ果實ノ類砂糖及水ノ外他物ヲ混セサルシロップ類ノ原料植物ニ基因スル沈澱濁濁ヲ除クノ外濁濁又ハ變敗シタルモノ、沈澱物又ハ固形ノ夾雜物アルモノ、鹽酸其ノ他ノ遊離鹽酸ヲ含有スルモノ、砒素、アンチモン、鉛、亞鉛、銅、錫ヲ含有スルモノ、有害性ノ芳香質ヲ含有スルモノ、製造又ハ輸入地地方長官ノ許可ヲ受ケサルテール色素ヲ使用シタルモノノ販買ヲ禁止ス而シテ、テール色素ヲ使用シタルモノハ人工著色ナル文字ヲ容器ニ明記スルコトヲ要シ地方長官ノ必要ナシト認メタルモノノ外ハ製造年月日等一定ノ事項ヲ記入シタル票紙ヲ以テ容器ヲ封緘スルコトヲ必要トス。

B. 氷雪 氷雪ヲ採取製造シテ販賣セムトスルモノハ地方長官ノ認可ヲ受クルコトヲ必要トシ地方長官ハ技術官ヲシテ採取、製造及貯藏ノ場所原料水等ヲ検査セシメ衛生上支障ナシト認ムルトキ初メテ之ヲ認可ス。

飲食用ノ目的ヲ以テ販賣スル氷雪ハ其ノ融解水ハ無色透明ニシテ臭味ナク又夾雜物アルモ僅微ニ過キサルモノニシテ百萬分中クロール含有量ハ二分、アムモニア量ハ〇、〇五分、過マンガン酸加里消費量ハ三分、亞硝酸ハ痕跡ニ止マルモノニアラサレハ販賣セシメ且飲食用氷ヲ販賣スル請賣業者ハ飲食用以外ニ使用スルヲ目的トスル氷ヲ販賣セントスル場合ト雖前記ノ性質ニ適合セサル氷ノ販賣又ハ貯藏ヲ禁セラレ以テ飲食用外ノ氷雪カ飲食用ノ氷雪ト混交シテ販賣セラル、ヲ防止セラル。

C. 牛乳及乳製品ニ關スル取締  
本品ニ付テハ別ニ記述アルヘキヲ以テ略ス。

D. 販賣ノ用ニ供スル人造バターハ其ノ容器ニ人造バターナル文字ヲ明記スルヲ要ス。

E. 販賣ノ用ニ供スル茶ニ關シテハ他物ヲ以テ色澤ヲ附與シタルモノ粘質物ヲ以テ製造シタルモノ土砂其ノ他ノ不純物ヲ混シタルモノ又ハ腐敗シタルモノ及之等ヲ他ノ茶へ混合シタルモノノ製造及販賣ヲ禁止セラル。

F. 酒精含有飲料

物品其ノモノニツイテハ税法關係ヲ除クノ外特殊ノ取締規定無キモ未成年者(滿二十歲以下)ノ飲用ヲ禁止シ親權者又ハ親權者ニ代リ未成年者ヲ監督スヘキモノニ未成年者ノ飲酒ヲ制止スヘキ義務ヲ負

ハシメ且營業者ニ未成年者カ飲用ニ供スルコトヲ知リテ酒類ヲ販賣又ハ供與スルコトヲ禁ス。

G. 煙草ニ付テモ未成年者ニ對シ其ノ喫煙ヲ禁スルノミナラス親權者其ノ他ニ對シ未成年者ノ喫煙ヲ制止スル義務ヲ負ハシメ且ツ營業者カ煙草又ハ器具ヲ販賣スルコトヲ禁セラル、等酒精含有飲料ト殆ント同様ノ規定アリ。

(3) 衛生上取締ヲ要スル物品ニ對スル取締

a. 飲食物用器具 飲食物用器具其ノ他飲食物ノ調理器貯藏器又ハ量器ニシテ鉛又ハ百分中鉛十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ製造又ハ修繕シタルモノ飲食物ニ接觸スル部分ヲ百分中鉛二十分以上ヲ含ム合金ヲ以テ鐵著シ又ハ百分中鉛五分以上ヲ含ム錫合金ヲ以テ塗布シタルモノ及珪瑯又ハ釉藥ヲ施シタルモノニシテ一定ノ試験ニ於テ砒素又ハ鉛ヲ溶出スルモノハ其ノ販賣及營業上ニ使用スル事ヲ禁セラル。又鍍詰用ノ鍍ニアリテハ外部ノ鐵著ニ百分中鉛五十分以上ヲ含ム合金ヲ使用スルコトヲ禁セラレ哺乳器具ニツイテハ鉛又ハ亞鉛ヲ含ム護膜ヲ以テ製造シタルモノノ販賣ヲ禁止セラル又別ニ營業用ニ供スル飲食物用器具ニツイテハ銅又ハ其ノ合金ヲ以テ製造シタルモノハ其ノ固有ノ金屬光澤ヲ有セサルモノ又ハ鍍金屬ノ剝脱シタルモノ、使用ヲ禁止セラル。

b. 飲食物ノ容器類小兒玩弄品衣類等

飲食物ノ容器被包ニハ漆硝子釉藥又ハ珪瑯質ニ融和シタルモノヲ除クノ外十四種ノ化合物又ハ之ヲ

含有スルモノヲ著色料トシテ使用スルコトヲ禁ス但硫酸バリウム外十品ニ付テハ飲食物ニ其ノ著色紙混入ノ虞ナキ場合ノミ其ノ使用ヲ許サル化粧品齒磨小兒玩弄品ニハ砒素以下十四品種ノ化合物ハ之ヲ含有スル著色料ノ使用ヲ禁セラル但此等著色料ニシテ漆硝子釉藥又ハ珪瑯質ニ融和シタルモノ護膜質ニ融和シタル金硫黃乾燥油又ハワニスニ融和シ若ハワニスヲ塗布シタル酸化鉛又ハクロム酸鉛、水ニ不溶性ノ亞鉛化合物ニシテ護膜質又ハワニス若ハワニスヲ塗布シタルモノハ其ノ使用ヲ許サル其ノ他護膜製玩弄品ノ製造ニ對シ酸化鉛酸化亞鉛ノ使用ニ關スル制限規定アリ衣服其ノ他身ノ圍リニ加フル物品又ハ其ノ材料ノ著色ニ砒素(布片百平方センチメートル中砒素二ミリグラム以下ヲ含有スルモノヲ除ク)ヲ含有スル著色料ヲ使用スルコトヲ禁セラル。

(三) 取締ノ機關ト其ノ方法

直接取締ノ任ニ當ル者ハ地方長官ニシテ地方長官ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ又ハ必要ニ應シ命令ヲ公布シ其ノ所屬ノ技術官及警察官ヲシテ絶ヘス取締ヲ必要トスル場所及ヒ各種物品ノ検査監督ニ當ラジム物品ノ検査ハ其ノ簡易ナルモノニアリテハ現場ニ於テ、困難ナルモノニアリテハ之ヲ收去シテ地方廳所屬ノ試験室ニ於テ之ヲ試験シ法規ニ違反スルモノハ廢棄其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ處分シ若ハ營業者ニ處分ヲ命シ又ハ營業者ニ於テ衛生上危害ナキ方法ヲ以テ處分セムコトヲ乞フトキハ之ヲ許可スル等適當ノ方法ヲ以テ衛生上ノ危害ヲ未然ニ防止スルト共ニ必要ニ應シ斯ル物品ノ製造採取販賣授與若ハ使用ヲ禁止シ又ハ營業者

ニ對シ其ノ營業ノ停止禁止ヲ命シツ、アリ。  
取締成績ハ別表ノ如シ。

第一表

飲料 清涼水	酒類	氷雪類	乳製品及		總數	簡易試驗	總數	
			牛乳	山羊乳				
沸騰 モナ デ サイ ダイ	リ モ ナ デ	清 雪 人 天	乳 山	製 羊	四〇、五二二	一、四二三	三六、一七一	八五四
	其 葡 萄 他	造 然 水	製 品		五二六	五	三九五	一六
					七二七	二二	一一、六九〇	一二六
					一、三〇七	一〇七	九、八〇〇	一七七
					一、六〇七	一二三	一一、四七二	二五六
					六	四	一、一九四	三五
					五三、七六八	九一八	六四、七四三	一、三六六
					二、五五九	五一	一一、六八六	三三一
					七、二九九	三四三	七二、六九五	一、八五四
					一五、六七二	一、九四三	九九二、九六八	七五、五八三
					六七、四五七	六、二〇一	三、三九二、八八二	二五三、〇〇三
					五九、三一八	五、四〇八	一、九七〇、〇六六	八一、九七三

雜類	防色劑類	著料類	化粧品類	玩具類	飲食物具			其 他	罐 詰 油	菓 子 類	雜 類				
					陶磁器具	其 他 金 屬 器 具	磁 瑯 引 器 具								
四八、一九二	一、九二五	三、四三四	二二六	八四二	二、三九五	五、六六七	八、五九三	四、九八八	七、二六一	四、九五八	一四、五五五	九、六七三	一九、四六八	七、二〇四	二、一一三
八、二七一	七七	一〇九	七	四六	一八八	一、二一三	一、二二五	八〇二	四三八	一八八	九九三	六〇二	一、七七六	九三九	二七〇
一三一、六四〇	八八三	二、一三七	二、七九〇	九、二六六	一〇、八七三	一二、五六九	二八、〇七四	三〇、八九一	二二九、六二六	四、七二三	一二、〇六六	九五、一八四	二四九、八〇四	二五三、一七四	一三六、四三五
九、八七七	七	五六	二	一四一	二二一	八四	五五八	六九〇	一二、九四四	一一七	一八六	四、二〇五	九、三六八	一七、九一〇	六、九七七

第二表 (大正十二年)

喫煙禁止法 禁酒法	違反件數	説諭ニ止メタルモノ	器物沒收件數	科料處分ニ付シタルモノ	罰金處分ニ爲シタルモノ
	四六、〇七二 二〇、九四七	四五、六八八 一九、九〇三	六八四 八五四	四三 二六六	一五

# 牛乳及乳製品

内務技師 池田 錫

我都市牛乳供給業ノ發達史ハ歐米諸國ト稍、其ノ趣キヲ異ニシ彼ノ牛乳ノ需給關係ハ比較的均衡ノ状態ヲ持シ漸次發達シタルヲ以テ牛乳ノ供給者ハ主ニ農家ナルニ反シ我ハ文久二年(六十二年前)東京ニ初メテ市乳トシテ牛乳ノ供給アリテヨリ各地ニ於ケル需用ノ急激ナル増加ニ依リ獨立ノ牛乳營業者ヲ出現シタル歴史ヲ有ス故ニ本邦牛乳生産ハ概ネ需要者多數ナル都市又ハ其ノ附近ニ限ラレ且ツ其ノ需用量少ク從テ之カ取締亦比較的簡易ナリシト雖輒近乳製品製造事業ノ勃興ニ伴ヒ農村ニ於ケル乳牛ノ飼育漸ク盛ントナルニ及ヒ其ノ産乳ノ一部ハ又市乳トシテ供給セラル、ニ至リ就中國民一般ノ榮養食品ニ對スル知識ノ向上ト共ニ牛乳亦漸次國民ノ日用食料品ノ域ニ入ルニ至レリ仍テ一般國民ノ榮養品トシテ倍々其ノ普及ヲ圖ランカ爲之カ市價ヲ調節スルノ要アリ殊ニ我國乳兒死亡率ノ高キニ鑑ミ人工榮養兒ニ對スル主要ナル母乳代用品トシテ純良牛乳供給ノ必要アル等現下ノ都市牛乳供給問題モ漸ク複雑トナルニ至レリ茲ニ於テ其ノ取締方法ノ寬嚴宜シキヲ得シカ爲メ目下取締規則改正立案中ナルヲ以テ以下唯現行牛乳營業取締ニ關スル事項ヲ説述スルニ止メ更ニ牛乳ト結核トノ關係ニ及フヘシ。